

横河電機の書籍広告 大正 7 年～大正 15 年

『電気年鑑』大正 7～15 年 電気之友社 所載

国立国会図書館 近代デジタルライブラリー (<http://kindai.ndl.go.jp/>)より

2009 年 6 月

関口 一雄

1 はじめに

国立国会図書館 近代デジタルライブラリーより横河電機の創業直後の広告・会社概要を見出した。電気之友社発行 『電気年鑑』大正 7 年 (1918) から大正 15 年の各年度、所載のものである。製品発表の直後であり、最も古い部類の広告かと思われる。

2 広告図版と会社概要

記載は左に広告図版、右に会社概要。概要は大正 10 年までのものは社名、代表者名、所在地、電話番号、業種の順序となっている。尚、字体の表記は可能なかぎり当時のままに表した。ただし、本来縦書きのものを横書きに変更してある。

3 各年度の広告と会社概要



大正 7 年

横河電機製作所

横河民輔

東京府豊多摩郡下渋谷七〇〇 (注 1)

芝 三三八 (注 2)

電気機械器具製造販賣



大正 8 年

横河電機製作所

横河民輔 横川一郎 (注 3) 青木 晋

東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇

芝 三三八一

電氣計器類一般



大正 9 年

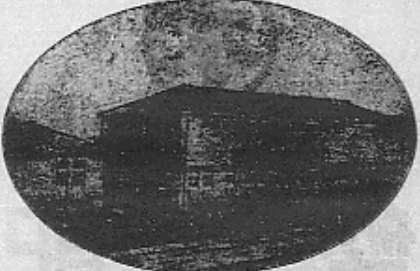
横河電機製作所

横河民輔

東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇

芝 三三八一

電氣計器類一式



營業課目

配電盤	及配電盤	電力計	器具
積算電力計	物理測定用器具	電力計	器具
各種物理測定用器具	電力計	器具	器具

株式會社 横河電機製作所
東京府澁谷町下澁谷七〇〇
電話芝三三八一・三八〇一

(3)

大正 10 年

株式會社 横河電機製作所 (注 4)

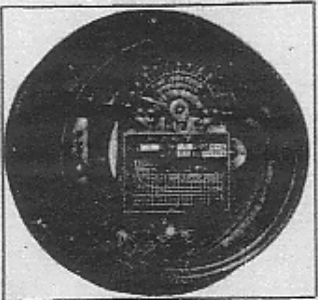
横川一郎 (注 3)

東京府豊多摩郡渋谷町大字渋谷七〇〇

芝長三三八一・三八〇一 (注 5)

電気計器及配電盤、物理学用測定器

Y. E. W.
APPARATUS FOR
LINE PROTECTION



誘導型繼電器
(TYPE I INDUCTION RELAY)

最近電力會社の資本合同は必然的に送電並に配電系統の連絡を實行する警備となりました。斯かる複雑せる線路にありて故障を換出遮断し被害を一部に止めしむる必要は恰も大都市に於ける消防設備の整備と同様であります。

社會奉仕に熱心なる電燈電力會社は新設の配電盤に動作完全なる誘導型繼電器の使用を斷行せらるゝは勿論既設の配電盤も同式なる繼電器は漸次置き換へて停電の事故を減じ營業の成績を挙げらるゝ機御望め致します。

株式會社 横河電機製作所
東京府澁谷町下澁谷七〇〇
芝三三八二・三八〇一

(1)

大正 11 年 (注 6)

株式會社 横河電機製作所

東京府豊多摩郡渋谷町大字下渋谷七〇〇

電 話 長芝三三八一・三八〇一

總 資本金 五十萬圓

払込資本金 二十萬圓

開業年月日 大正四年十月

主要製作品 電気計器、配電盤、積算電力計 其他
精密電気器具

工場坪數 六〇〇坪 (注 7)、工場所在地 本社内

社員 總數 二十人、職工 百五十人

専 務 横河一郎 取締役 青木 晋

取締役 瀬戸文吾 監査役 山北與三郎

監査役 東郷 安 技師長 青木 晋

Y. E. W.
單相積算電力計
Y 20 型

主なる
納入先
東京市電氣局
南滿洲鐵道株式會社
京濱電氣株式會社
東邦電力株式會社



逓信省型式承認第七拾號

此單相積算電力計は其の製造費を減じ且つ耐久的なる構造を案出して帝國政府の特許を得今や之を實際に應用して逓信省の型式承認を経たり。依て弊所は之を市場に出して各位の御試用と御教示を乞ひ並に製造設備を完成して良品廉價の要諦たる大量生産に成功せん事を期するものなり。

株式會社 **横河電機製作所**
東京府澁谷町

(特許)

大正 12 年

株式會社 横河電機製作所

東京府澁谷町下澁谷七〇〇

電 話 芝長三三八一・三八〇一

総資本金 五十萬圓

払込資本金 二十萬圓、最近配当率 九分

開業年月日 大正四、一〇

主要製作並販売品 電氣計器 配電盤

配電盤用器具 積算電力計 物理学測定器及実験装置

工 場 東京府澁谷町下澁谷七〇〇

工場建物坪數 九〇〇坪 (注 8)

社員、職工數 社員二〇名、職工二〇〇名

専 務 横河一郎 取締役 青木 晋

取締役 瀬戸文吾 監査役 山北與三郎

監査役 東郷 安 技師長 青木 晋

Y. E. W.
單相積算電力計
T. 型

主なる
納入先
東京市電氣局
南滿洲鐵道株式會社
京濱電氣株式會社
東邦電力株式會社



逓信省型式承認第八拾九號

此單相積算電力計は其の製造費を減じ且つ耐久的なる構造を案出して帝國政府の特許を得今や之を實際に應用して逓信省の型式承認を経たり。依て弊所は之を市場に出して各位の御試用と御教示を乞ひ並に製造設備を完成して良品廉價の要諦たる大量生産に成功せん事を期するものなり。

株式會社 **横河電機製作所**
東京府澁谷町

大正十三年電氣年鑑
第四八

大正 13 年

株式會社 横河電機製作所

東京府澁谷町下澁谷七〇〇

電 話 芝長三三八一・三八〇一

総資本金 五十萬圓

払込資本金 二十七萬五千圓

最近配当率 九分

開業年月日 大正四、一〇

主要製作並販売品 [電氣計器 配電盤 配電盤用器具 積算電力計 物理学測定器及実験装置]

工 場 東京府澁谷町下澁谷七〇〇

工場建物坪數 七〇〇坪

社員、職工數 社員二〇名、職工二一〇名

専 務 横河一郎 取締役 青木 晋

取締役 瀬戸文吾 監査役 東郷 安

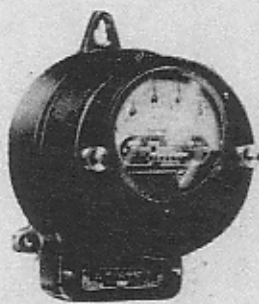
監査役 山北與三郎 技師長 青木 晋

Y. E. W.

單相積算電力計

T 型

選省型式承認第八拾九號



主なる
納入先

東京市電氣局

南滿洲鐵道株式會社

京濱電氣株式會社

東邦電力株式會社

此單相積算電力計は其の製造費を減じ且つ耐久
的なる構造を案出して帝國政府の特許を得今や之
を實際に應用して選省の型式承認を経たり。依
て弊所は之を市場に出して各位の御試用と御教示
を乞ひ並に製造設備を完成して良品廉價の要請た
る大量生産に成功せん事を期するものなり。

株式會社

横河電機製作所

東京府澁谷町

監査役 山北與三郎 技師長 青木 晋

[illegible]

取締役 瀬戸文吾 監査役 東郷 安

4 大正 7 年から 10 年までの広告図版

下の写真（写真 1）は『計測器ひとすじに 横河電機の 50 年』より 23 頁 『渋谷工場全景』である。大正 7 年から 10 年までの広告はこれをベースにしたものと考えられる。広告原稿作成時に手前の電柱や煩雑な背景をカットしたのであろう。この時代、図版に工場等を使用した例は他社にも見受けられる。独立した社屋を所有していることはそれなりの宣伝効果があったと思われる。なおこの時代から文案は一貫して左横書きになっている。右横書きも多かった時代、現在の私たちにも全く違和感がない。

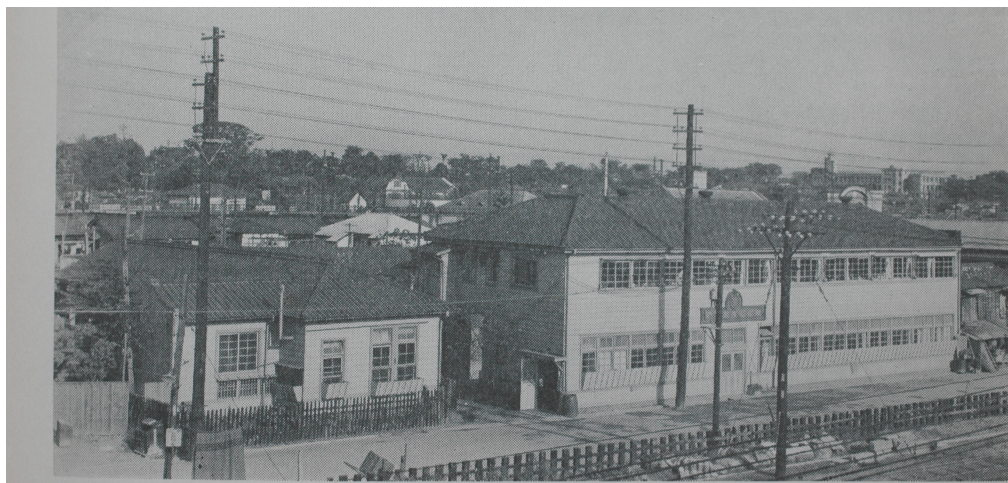


写真 1 渋谷工場全景

5 大正 11 年から 15 年までの広告図版

大正 11 年からは、図版は『渋谷工場全景』から製品、しかも写真となっている。そしてこの 11 年にはその後永い年月シンボルであった YEW の原型というべき Y. E. W の社章の出現を見ることができる。製品写真は誘導型継電器、12 年以降 14 年までは単相積算電力計となっている。12 年の製品（Y-20）は創業当初からの懸案であったものの量産化で問題があった。しかも第一次世界大戦後の復興から立ち上がったドイツ、シーメンスの製品がどんどん流入してきた。広告のなかで『・・・良品廉価の要諦たる大量生産に成功せん事を期するものなり。』とは裏腹にシーメンスの製品が一台 6 円前後に対し 20 円以上のコストになる Y-20 は残念なことにこれにたちうちは難しかったという。この年代 12 年には 9 月に関東大地震に見舞われた。幸い被害は軽微なものであった。13・14 年は T1 形積算電力計を掲載している。さきの Y-20 を改良したもので 19 円、それでも輸入品とは競争にならず、また芝浦製作所、富士電機からも量産品が出るようになったため、生産を中止した。15 年には電磁オシログラフが登場した。この価格は研究用 2,000 円で他の計器に比較すると相当高価だったが、輸入品の半額ぐらいだった。これによって横河は大きな声価を勝ちえ、その後ブラウン管オシログラフが出来るまで長くドル箱となった。

6 創業の頃 『計測器ひとすじに 横河電機の 50 年』 による。

大正 4 年 9 月 1 日	電気計器研究所（東京・渋谷）に創設。大正 2 年勃発の第一次世界大戦の影響で電気計器の輸入途絶。
大正 5 年 3 月ころ	横河電機製作所と改称。
大正 6 年 6 月	電流計、電圧計、電力計などの試作に成功。ついでこれ等の販売を開始した。また業界初とみられるカタログを作成。
大正 7 年 3 月	木造 2 階建の本建築工場の建設。逓信省の指定工場となる。 電気博覧会に出品。11 月、第一次世界大戦終結。
大正 8 年 4 月	電気測定器の研究製作を開始。海軍省の指定工場となる。12 月、安川電機、北辰電機設立。
大正 9 年 12 月	資本金 50 万円の株式会社を創立。3 月、大戦後の反動恐慌。株式大暴落。
大正 10 年 4 月	初めて測定器発売。
大正 11 年 11 月	工場を拡大。
大正 12 年	携帯用電磁オシログラフの試作に成功。9 月、関東大震災。
大正 13 年	携帯用電磁オシログラフの製品化。4 月、東京電燈（現在の東京電力）屋内灯 3 灯以上は従量制となる。積算電力計の需要が増加。
大正 14 年 3 月	高周波測定器研究製造を開始。ラジオ放送開始。
大正 15 年 5 月	平和博覧会へ電磁オシログラフ出品、名誉賞受賞。 9 月、創立 10 周年。最初の自動式電話京橋に開設。12 月、大正天皇崩御。昭和と改元。
昭和 2 年 3 月	YEW の商標出願、8 月登録される。4 月、陸軍省の指定工場となる。

7 電気年鑑について

この書物、当初のものどこにも発行年月日、発行者、発行所等記載すべき奥付のページが見当たらない。大正 12 年から記載されるようになっている。したがって大正 7～11 年までは発行日が定かでない。ちなみに大正 12 年のものは 7 月 30 日発行。大正 13 年 8 月 15 日発行。大正 14 年 7 月 20 日発行となっている。また大正 13 年度の年鑑の凡例に『・・・主要事項は電気之友誌上より精選して抜録』＊電気之友は電気之友社発行の月刊誌。『・・・電気事業及商工業一覧は大正 13 年 3 月末日迄の回答に依れるもの』となっている。

この年鑑、大正 15 年のものを見ると次のように大部のものである。参考までに目次を次ページに記載した。

大正 15 年電気年鑑目次 大正 14 年中の本邦電気界

電燈・電力・電気鉄道。電気化学工業。電気商工界。電気通信。学事及会合。各学校
電気科卒業生一覧（大正 14 年中）。法令。人事。書類出版物。14 年末現在 1 万キロ以上
電気事業一覧。14 年末現在電気鉄道事業一覧。

＊日本に於ける電気学術及其応用の沿革

1 電信事業 2 電話事業 3 電燈 4 電気鉄道 5 電気化学工業 6 電気機械及器具製造業 7 電気教
育・協会・雑誌

＊ 大正 15 年電気事業

電燈電力電気鉄道府県別一覧目次 東京・神奈川・・・・台湾

電燈電力電気鉄道イロハ別索引 イ之部・ロ之部・・・・ス之部

電気化学工業目次 イ之部 磐城電気株式会社・・・・ス之部 諏訪電気株式会社

＊ 官庁用電気一覧目次 鉄道省・陸軍省・・・・文部省

＊ 自家用電気一覧目次 イ、キ之部 磐城炭鉱株式会社・・・・ス之部 ズルツール・
ブラザーズ

＊ 官庁電気に関する職員（事務官・技師・教官）一覧

逓信省・鉄道省・・・・各府県

＊ 電気に関する学校一覧 東京帝国大学工学部電気工学教授室・・三井工業学校電気科

＊ 電気に関する学会及協会一覧 工学舎・・・・京都商業会

＊ 全国無線電話機商組合加入店一覧目次 東京無線電話機商組合・・・・大阪ラジオ組合

＊ 電気図書一覧 電気理論及電気工学・・・・電気講義録

＊ 電気家小伝（写真入）目次 東京電燈株式会社社長 神戸一・・・・
株式会社川北電気企業社社長 川北栄夫

＊ 大正 15 年電気年鑑広告目次 （イ）伊咲鉄工所 特 23・・・・（ス）住友電線製造所 （特 18）

以上、本文 702 ページ。他に広告約 80 ページ。

8 所在地 東京府下渋谷町字下渋谷七〇〇

大正7年の広告の所在地は上の表記である。しかも、この年の会社概要では東京府豊多摩郡下渋谷700となっていて、これは渋谷町を落した形跡がある。ことのついでに次は何とか地図上でこの位置を確認したいと考えた。いろいろ大正年間の古い地図をインターネット上で探した。幸い地番を克明に記載されているものが発見できた。



(地図 1)
大正7年。



(地図 2)
現在のもの。

(地図 1) は『東京府豊多摩郡渋谷町平面図』大正7年8月発行。矢印の先に七〇〇の地番が見える。『計測器ひとすじに 横河電機の50年』によると『・・・そこは渋谷駅の近くで。恵比寿駅に向かう山手線の線路に沿った道の左側だった。』とある。

傍証として『ズイコー夜話 ―オリンパスカメラ外史―』桜井栄一著(注11)を見てみよう。ここには次のように語られている

『この渋谷の工場というのは当時の渋谷区田毎町、今の東1丁目で、国鉄の渋谷と恵比寿の間、東横

線が国鉄を越える鉄橋と、青山から代官町に抜ける道が国鉄を越える猿樂橋に挟まれた所にあつて、そのころ三鷹に移った横河電機の渋谷工場を高千穂（注 12）が買収したものである。』と記されている。

これらの記事を参考にすると現在の渋谷清掃工場（東 1 丁目 35-1 正式名称 東京二十三区清掃一部事務組合 渋谷清掃工場）の一角であつたことが判明した（地図 2）。

地図 1、地図 2 で左上から右下に向かっている線路は山手線でその線路の延長線上の上部に渋谷駅。逆には恵比寿駅がある。両図の縮尺は同一にしたいところであつたが多少の差異が生じた。

下の写真（写真 2）が現在の姿である。当然とはいえ 90 年間の都市の変貌には、その土地に秘められた数々の歴史と重なって感慨深いものがあつた。



写真 2 創業の地の現在 （2009 年 6 月 15 日撮影）

9 正誤など

注1 現在の渋谷区東1丁目

注2 三三八 → 三三八一。 末尾一が脱落している。

注3 横川一郎 → 横河一郎。河が川になっている。

注4 社名の前に株式会社が入る。

注5 長・・・長距離電話。

注6 Y.E.W のロゴマークが入る。

注7 六〇〇坪→七〇〇坪。前後の関係から六〇〇坪は誤植ではないか。

注8 九〇〇坪→七〇〇坪。ここも九〇〇坪は誤植ではないか。

注9 芝局から青山局。

注10 ロゴマークからドットが消えた。

注11 桜井栄一氏。当時オリンパス光学工業(株) 相談役。

注12 高千穂→現在のオリンパス(株)。

10 参考文献

-1 『計測器ひとすじに 横河電機の50年』

編纂・発行 株式会社 横河電機製作所 昭和40年9月1日印刷・発行。

-2 『電気年鑑』 電気之友社 大正7年～15年発行。

国立国会図書館 近代デジタルライブラリー (<http://kindai.ndl.go.jp>)。

-3 『ズイコー夜話 ―オリンパスカメラ外史―』 桜井栄一著 現代カメラ新書

No.86 昭和58年3月31日発行 (株朝日ソノラマ。9ページ。

-4 『東京府豊多摩郡渋谷町平面図』大正7年8月発行。渋谷町役場。

国際日本文化研究センター S3 地図、YG/7/GC67/To.000730663

http://tois.nitibun.ac.jp/chizu/santosi_1231.html

-5 地図2 Google 地図